

# 平成 21 年度 第 5 回須賀川市総合交通活性化協議会概要

日 時	平成 22 年 3 月 17 日 (水) 10:00~11:00	場 所	須賀川市総合福祉センター ミニシアタールーム
出 席 者	別紙、協議会委員名簿のとおり。		
会 議 概 要	○議事 1 パブリックコメントの結果報告 2 総合交通ビジョン (案)		
資 料	○次第 ○パブリックコメントの結果報告 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料 1</span> ○第 4 回協議会時の意見等の対応について <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">参考資料</span> ○総合交通ビジョン (案) <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料 2</span>		
議 事 録	以下のとおり。		
<p><b>■議事概要と結果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パブリックコメントの結果報告 ⇒委員より意見・質問なし。 ※委員了承</li> <li>・総合交通ビジョン (案) に関する協議 ⇒委員より意見・質問あり。 <ul style="list-style-type: none"> <li>意見 1 : 公共交通を継続性が最も気になる点であり、現実的にはやればやるほど赤字が増えるといった状況の中で、減便等で対応するだけでなく、町内会からの協賛金の募集や広告収入によって運行費用を確保する検討も行う必要があると考える。試行錯誤を繰り返しながらの運行となると思うが、ぜひ交通事業者が継続的に運行を行える体系を構築してほしい。</li> <li>説明→公共交通をいかに維持していくか、また、コストをいかに抑えるかについては非常に大きな課題であり、ご意見のとおりである。一方で、市民が利用していると認識できる公共交通であれば、ある程度の支出はやむを得ないとも考えており、実証運行の中でコスト面の検討も行いながら、継続的に運行できる体系を構築していきたい。</li> <li>意見 2 : 今後は市内のみではなく広域的な路線バスも対象にして検討をしていかなければならないと思う。また、利用者の視点に立ち、利用しやすい路線バスや乗合タクシーの運行について十分に検討しなくてはならないと考えている。須賀川市は路線バスの運行経路の変更等によって、まだ利用者の増加も期待できる素地はあると考えている。</li> <li>意見 3 : 新年度の予算として、自治体の裁量で利用できる新しい交付金制度が国会において議決されようとしている。公共交通運行の赤字補填には活用できないと思うが、歩行者の安全・安心のための歩道整備や停留所の確保、あるいは総合交通ビジョン (案) においても書かれているような見やすいバス停表示などには使える予定である。</li> <li>説明→ご紹介いただいた交付金制度についても今後活用を十分に考えていきたい。</li> <li>意見 4 : 国の支援制度も活用しながら、通勤者の公共交通への転換促進など、公共交通の利用を促進するモビリティマネジメント施策も十分に検討をしていただきたい。</li> <li>説明→低炭素社会の構築についても考慮して本ビジョン (案) を策定しており、その中でモビリティマネジメント施策についても検討すべき内容として整理しているが、本市においては、まずは利用できる公共交通体系の構築を優先的に検討する必要があると考えている。</li> </ul> </li> </ul>			

※その他、意見等なし。

- ・総合交通ビジョン（案）に関する承認  
⇒委員より異議なし、総合交通ビジョン（案）の承認を得た。

以上、議事内容について協議会の了承を得た。詳細については次のとおり。

## ■議事詳細

### (1)パブリックコメントの結果報告について

会 長：パブリックコメントの結果報告について事務局から説明をお願いします。

事務局：（パブリックコメントの結果報告について説明。）

会 長：これについて、質問や意見はあるか。

※意見等なし。

### (2)総合交通ビジョン（案）について

会 長：総合交通ビジョン（案）について事務局から説明をお願いします。

事務局：（総合交通ビジョン（案）について説明。）

会 長：これについて、質問や意見はあるか。

委 員：岩瀬地区の運行に関して、「当面」運行を維持とあるが、もっとも気になる点は公共交通の継続性であり、現実的にはやればやるほど赤字が増えるといった状況の中で、どの自治体でも試行錯誤の中で交通政策に取り組んでいる現状にある。福島市の蓬莱団地のバスも継続のために様々な苦勞を重ねていると聞いており、今後、公共交通に関する各種補助金が減少する見込みの中で、減便するだけでなく、町内会からの協賛金の募集や広告収入によって運行費用を確保する検討も行う必要があると考える。試行錯誤を繰り返しながらの運行となると思うが、ぜひ交通事業者が継続的に運行を行える体系を構築してほしい。

事務局：公共交通をいかに維持していくか、また、コストをいかに抑えるかについては非常に大きな課題であり、ご意見のとおりである。現在も運行に関しては多額の財政負担が伴っているが、そうした負担が、公共交通を利用している上での負担であればやむを得ないと思っており、実証実験の中でコスト面の検討も行いながら、継続的に運行できる体系を構築していきたい。

委 員：路線バスの小型化、バリアフリー化を以前よりお願いしている。会津で運行されている小型バスのように、低床化されたバスの導入を検討していただきたい。また、乗合タクシーと一般タクシーの運賃の差はどの程度か。

委 員：福島県は路線バス車両のバリアフリー化に関しては他県に遅れをとっており、国や県から指導をされている。福島交通においてもバスのバリアフリー化や小型バスの導入を進めており、年に4～5台のノンステップバスを導入している。今後は大型バスを廃止して小型バスも導入する計画を持っている。

事務局：一般タクシーの料金は距離を基準としており、どこから乗るかによって料金が異なるため比較しにくいですが、例えば上小山田のあたりから市中心部までは3000円以上かかることがある一方、乗合タクシーは1人1回乗車につき500円である。

委 員：本協議会では須賀川市を完結する路線を対象に検討を進めてきたが、バス事業者としては、今後は広域的な路線も対象にして検討をしていかなければならないと考えている。また、利用者の視点に立ち、利用しやすい路線バスあるいは乗合タクシーの運行を十分に検討しなくてはならないと考えている。路線バスで言えば須賀川市は運行経路の変更等、まだまだ工夫できる余地があり、利用者の増加も期待できる素地はあると考えている。

委 員：新年度の予算として、新しい交付金制度が国会において議決されようとしている。従来の交付金と補助率は変わらないが、自治体の裁量で利用できる内容となっている。また、公共交通運行の赤字補填には適用できないと思うが、歩行者の安全・安心のための歩道の確保や停留所の確保、

あるいは総合交通ビジョン（案）においても書かれているような、見やすいバス停表示などには活用できると思われる。国会で決定した際には、県を通じて交付金に関する情報を提供する予定である。

事務局：現在想定している地域公共交通活性化・再生総合事業のみならず、ご紹介いただいた交付金制度についても今後活用を十分に考えていきたい。

委員：総合交通ビジョン（案）の関連計画として、郡山都市圏パーソントリップ調査の事務局をした立場として説明する。本計画では自動車に対する依存を軽減することを重点的に考えている。自動車依存率が高まってきた背景がある中で、現在は公共交通を利用して移動する権利が重視されてきている。ご紹介いただいたような国の支援制度も活用しながら、通勤者の公共交通への転換促進など、公共交通の利用を促進するモビリティマネジメント施策も十分に検討をしていただきたい。

事務局：総合交通ビジョン（案）の中で低炭素社会の構築についても考慮した検討を行っており、その中でモビリティマネジメント施策についても検討すべき内容として整理している。しかしながら、本市が直面している課題としては、公共交通が利用できないことにあり、まずは利用される公共交通体系の構築を優先的に検討する必要があると考えている。

会長：その他、何かあるか。

※意見等なし。

会長：それでは、総合交通ビジョン（案）についてご承認いただくことでよいか。

全員：異議なし。

会長：事務局で取りまとめを行う際に、細かい文言修正等も想定されるが、文言等の精査については事務局一任でよいか。

全員：異議なし。

### (3) その他

会長：その他に案件はあるか。

事務局：総合交通ビジョンについては、製本でき次第、委員の皆様へ郵送する。次年度以降の協議会は法定協議会に移行し、国の制度活用を図りたいと考えており、引き続きご協力をお願いする。市の機構改革により、本業務に関する担当課が生活課に移管されるため、新年度は生活課からご案内差し上げる。

以上